

| | |
|--|------------------|
|  <h1>志木四小だより</h1> <p>学校教育目標</p> <p>○よく考える子 ○思いやりのある子 ○やりぬく子 ○元気な子</p> | 志木市立志木第四小学校 |
| | 令和2年度 No.9 |
| | 令和2年12月1日 |
| | 志木市館1丁目4番1号 |
| | TEL 048-474-7911 |
| | 児童数12月1日現在 443名 |



モモと灰色の男たちとコロナ禍と

志木市立志木第四小学校長 可知良之

私事で恐縮ですが、私はテレビドラマが大好きで、仕事を終えて夕食後のドラマ鑑賞を何よりの楽しみにしています。最近では柴咲コウさん主演の「35歳の少女」というドラマを毎週欠かさず見ているのですが、不慮の事故で25年間眠り続けた柴崎さん演じる望美が、失われた時間をどう取り戻していくのか今後の成り行きに目が離せません。ドラマのテーマが「失われた時間」ということからか、「モモ」という本のことが度々出てきます。モモという小さな少女が、人間の時間を盗み取っていく灰色の男たちに立ち向かい、困難を乗り越えて皆の時間を取り戻していくお話です。「モモ」はドイツの児童文学作家「ミヒャエル・エンデ」が1973年に世に送り出した児童書です。内容的には探偵小説の様なスリルと、空想科学的なファンタジーに加え、大人にも子供にも関わる現代社会の問題を取り上げ、時代へのするどい風刺にあふれています。モモは浮浪児で身なりもきれいではありませんが相手の話を本当に聞くことのできる才能をもっています。人の話をじっくりただ聞いているだけといった人が今の世の中にどれくらいいるのでしょうか。

「忙しいからあとで」と言われるのがおちです。また、自分の仕事に誇りを持ち、時間をかけて丁寧に仕事をする道路清掃夫ベッポは「世の中の不幸というものは全て、みんながやたらとうそをつくことから生まれている、(中略)せっかちすぎたり、正しくものを見極めずにうっかり口にしたりするうそのせいなのだ」とゆとりのない現代人の不幸を語っています。灰色の時間泥棒たちは、時間を節約すればより豊かな生

活が送れるとうそぶき、大人たちはまんまとその口車に乗せられてしまいます。自分たちの生活が日ごとに貧しく、画一的で冷たくなっていることを誰一人認めようともせず。やがて、人間はひどい病気にかかります。初めのうちは気の付かない程度ですが、ある日急に何もする気がしなくなってしまう。何についても関心がなくなり、何をしても面白くありません。心の中は空っぽになり自分に対しても、世の中に対しても不満が募ってきます。そのうちにこういう感情さえなくなって、およそ何も感じなくなってしまいます。そして、子供たちも役に立つことだけを覚えさせられ、大事なあることを次第に忘れてゆきます。そのあることとは、楽しいと思うこと、夢中になること、夢を見ることです。

モモのお話を改めて読み返しているうちに、私は「モモ」の世界で繰り広げられていることは、今年のコロナ禍での現代と極めて似ていると感じ始めました。奪われたのは時間だけではなく、心の豊かさや子供たちが毎日を楽しんでいる気持ちは少なからず奪い取られている気がします。モモが灰色の男たちと戦う手助けをしたマイスター・ホラは「人間は自分の時間をどうするかは、自分で決めなくてはならない。だから、時間を盗まれないように守ることだって、自分でやらなくてははいけない。」とモモに言います。モモは果敢に灰色の男たちと戦いました。現実の世界でも私たち大人たちもしっかりと戦っていく必要があるのではないのでしょうか。

参考文献 「モモ」岩波書店